

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 6 月 6 日現在

機関番号：32675

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2010～2013

課題番号：22530877

研究課題名(和文)成人教育における国際ネットワークとしての国際成人教育協議会の発展史に関する研究

研究課題名(英文)A Research of the History of International Council for Adult Education for International Network of Adult Education

研究代表者

荒井 容子 (ARAI, Yoko)

法政大学・社会学部・教授

研究者番号：70287837

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,100,000円、(間接経費) 930,000円

研究成果の概要(和文)：1999年から2002年にかけての国際成人協議会のカナダからウルグアイへの事務局移転は1980年代中頃に軍事独裁政権を終結させた当該国及び当該リージョンの民衆運動の盛り上がりと、1985年第3回世界大会を通じての同協議会へのその影響、事務局移転後の同協議会の挑戦的活動展開と、関わっている。従ってこの移転は単なる経費削減目的の途上国移転ではなく、同協議会発展史における重要な画期として、上記諸条件と深く関わらせて理解されるべきことが明らかになった。またリージョン組織についてはそれぞれの発展史を、関係国の政治情勢の変化、リージョン内の諸国間関係、支援組織等をふまえて分析する必要があることが分かった。

研究成果の概要(英文)：The moving of the secretary and its office of International Council for Adult Education from Canada to Uruguay is related to the enthusiasms of popular movements after the dictatorships within the country and the region in the mid-1980s and that ICAE have been influenced from such enthusiasms though its third World Conference. ICAE also have explored their activities after the moving more than before. So it got clear that we had to take the moving more important epoch within the ICAE history through its relation of these components, beyond the simple reason for reduction of finance. It also got clear that we have to analyze each history of its region organizations under the political situation changing of the related countries, the relation structure of them among each region, the support organizations to them, and so on.

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：教育学・教育学

キーワード：成人教育運動 社会教育 国際成人教育協議会 国際成人教育会議 生涯学習 社会運動 国際ネットワーク

### 1. 研究開始当初の背景

成人教育運動の国際的展開は、1973年の国際成人教育協議会 (International Council of Adult Education, 略称 ICAE) の創設とその継続した展開によってその内実を豊かにしてきていたが、その歴史に関する研究は十分蓄積されてこなかった。運動推進に力がそそがれてきたため、記録と分析は、当事りによる時々の回顧とまとめに止まっていた。成人教育運動の国際的展開の意義とそのあり方を解明するという観点からの体系的な資料収集と、これにもとづく本格的な研究も、世界的に未着手であった。それにも関わらず、運動の歴史が相当年経過し、これに国、リージョンを越えた担い手の交代や運動盛衰も重なって、資料の拡散の恐れがあった。また、関係者の高齢化等により運動当事者に対する本格的なインタビュー調査も、その機会が失われかねない状況にあった。

### 2. 研究の目的

成人教育運動の国際的展開のあり方を明らかにするために、成人教育の国際的ネットワークとして最長、最大の組織、国際成人教育協議会 (ICAIE) について、その発展史を世界各リージョンごとの成人教育運動組織及び各国の関連成人教育運動組織の発展史との関係の中に位置づけて分析し、その運動の成果と課題を明らかにすることがこの研究の目的である。このために、ICAIE に関する本格的、体系的な資料収集と当該段階での分析を深め、また ICAIE と関係の深い国、リージョン組織に関する資料収集の方法を探り、実施に着手することを、本研究の当面の目的とした。

### 3. 研究の方法

ICAIE 本体に関する資料収集は、ICAIE 第8回世界大会 (2011年) への参加、ICAIE 生涯学習施策アカデミー (IALLA) グラディエイト・コース (2012年) への参加によって、継続した参与観察による情報収集を行った。また、現 ICAIE 事務局を二度 (2011年、2014年) 訪問し、すでに入手した資料以外に、現事務局で入手可能な資料の確認を行った。さらに 1999年から 2001年の ICAIE 存亡の危機に関わって、その後を引き継いだ現事務局長 Celita Eccher 氏への、当時の経緯についてインタビューを行った (2011年)。また当該事務局長とともに ICAIE の事務局を引き受けることになった ICAIE スタッフにもインタビューを行い、事務局長へのインタビュー結果の裏付けを得るとともに、引き受けた側の状況・意図に関する詳細な経緯を知ることができた (2014年)。また ICAIE に関する参与観察を継続することで、ICAIE のニューズレター (Voices Rising) のうち、ICAIE がみずからその 40周年にあたってまとめた、特

集号も含め、現在に至るその活動史・発展史に関する資料収集を補った。

リージョン組織については、アジア・パシフィックリージョン組織 (ASPBAE) を発展させた二代目事務局長 Chis Duke 氏と対面したうえで、ペーパーによるインタビューを行った (2013年)。また、同事務局長の紹介で、同氏へのインタビュー前に、ASPBAE 発足の地、オーストラリアのビクトリア州の当時の成人教育に関する動向についてのインタビューと資料収集も行った。さらに、ASPBAE 自身がその創設 50周年をふりかえる行事の一環として、関係者によるリフレクションセミナーを開催 (2014年) したが、ここに参加し、ASPBAE の活動を、各期に担ってきた人物による当時の回顧・分析による証言を直接、入手することができた (関連して 2013年に、ASPBAE メンバー組織の各国代表による会議でも、これに先立って、ASPBAE の歴史を振り返る短いシンポジウムが開催されたが、これにも参加し、おもに 1990年代の ASPBAE の活動展開に関わる当事者の証言を入手することができた)。

また、ラテンアメリカリージョンに関しては、上記したように、同リージョンに置かれている ICAIE 現事務局の訪問と現 ICAIE 事務局長および関係者へのインタビューの中で、当該リージョンの運動団体、ラテンアメリカ民衆女性教育組織及びラテンアメリカ成人教育協会の情報を入集する方法について、手掛かりを得た。ヨーロッパリージョンについては、現事務局を訪問し、同事務所で入手可能な情報を確認するとともに、現事務局長 Gina Ebner 氏へのインタビューを実施した。

このほか、ユネスコ生涯学習研究所の図書館を訪問し、国際成人教育会議関係の資料について、既に入手済みのもの以外の資料の、同図書館での保管の有無を確認した。

### 4. 研究成果

(1) ICAIE 本体について 資料収集・インタビューの実施から得られた当面の知見 ICAIE は第1回 1974年ダレスサラム (タンザニア) 第2回 1982年パリ (フランス) 第3回 1985年ブエノスアイレス (アルゼンチン) 第4回 1990年バンコク (タイ) 第5回 1994年カイロ (エジプト) 第6回 2001年オチャリオス (ジャマイカ) 第7回 2007年ナイロビ (ケニア) 第8回 2011年マルメ (スウェーデン) と継続して世界大会を行ってきた。

報告者はすでに「国際成人教育協議会 (ICAIE) の課題意識発展の過程 - 成人教育運動の国際的展開に関する研究 (1) - 」『社会志林』(法政大学社会学部紀要) 第54巻 第3号 (2007年12月) で、ICAIE の国際ネットワークとしての課題意識の発展を、世界大会の展開にも注目して検討し、

その課題意識が、世界の社会運動の発展と、ICAE のこのような運動の代表ともいえる世界社会フォーラムとの結びつきによって、より社会性を帯びてきたとの仮説を得たが、この点は本研究期間中に開催された第8回世界大会においても確認することができた。

また、特に、1999年～2001年のICAE存亡の危機に、ウルグアイのメンバーが事務局を引き受けることになる経緯と引き受けた側の意図をインタビューによって知ることができた。それ以前のインタビューでは、財政的危機を踏まえ、経費の安い国に事務所を移すことのメリットがおもに説明されてきた。しかし、引受けた側にとっては、それまで先進国としてカナダがICAEの事務局を継続して担ってきたところからウルグアイに移ることは、規模の大きい国際的なNGOの事務局を途上国が担うという自負と、国際的な社会運動内の既存の構造（南北構造）への批判意識と挑戦意識がそこにあることが分かった。

さらにまた、事務局というその大役の積極的な受け入れの背景には、報告者がすでに評価してきたことではあったが、1985年にアルゼンチンで開催されたICAE第3回世界大会の、ICAE事務局（当時）側にとっての意味 ラテンアメリカの民衆運動の勢いに触れて、その自己認識を、ICAEの活動自体が「社会運動」であるというものへ展開させたにとどまらず、大会開催を引受けたラテンアメリカの民衆運動側にとっても大きな意味があったという、その一端を確認することができた。それは、10数年にわたる軍事独裁政権を終結させた各地の民衆運動の関係者が、ICAEこの世界大会への参加を通じて、ラテンアメリカリージョン内の国を越えたつながりがより深められ、さらにまた社会運動と連なる成人教育関係者の世界規模での存在と、そのネットワークの存在が、感動と希望をもって受け止めていたということである（Voices Rising No.456 及び報告者によるCelita Eccher氏へのインタビューより）。

ICAEはその創設当初から、成人教育が活発でないリージョンでのその支援を課題としていた。たとえば第1回世界大会のタンザニア開催はその象徴的な施策だったといえる。第3回のアルゼンチン開催もその意図を推測できるが、資料からはっきりとその意図を読み取るかとはまだ報告者にはできていない。インタビューでも確認ができていない。むしろ事務局側の意図は前述したように、パウロ・フレイレ等による民衆教育運動の隆盛に引きつけられての開催だったとみることもできるように思う。

しかし、ICAEのウルグアイ移転後の活動展開では、まず、2008年の第7回世界大会アフリカ開催において、はっきりと、アフリカの成人教育運動のネットワークの再活性化の意図が示されていた。これは、

2009年のユネスコ国際成人教育会議（ベレン、ブラジル開催）への準備に向けたアフリカの動きの活性化につながっていた（汎アフリカグループによる、ユネスコ会議に向けた特別報告書がまとめられた）。また、ICAEは2004年から、各国及び国際的な成人教育の実践と運動の担い手を養成するためのセミナー、ICAE生涯学習施策アカデミー（IALLA）を挑戦的意味をこめてほぼ毎年開催してきたが、2014年の第9回IALLAはヨルダンで開催された。そこには、アラブリージョンの成人教育運動支援の意図を推測することができる（インタビューによる証言も得られた）。

このように、途上国が国際組織の事務局を引き受けるという自負が、成人教育運動の途上国におけるより積極的な支援を、具体的な運動の担い手及び、ICAE自体の担い手に位置づける活動の推進に繋がっているのではないかと推察される。またこの経緯はICAEがこの間、深くかかわってきた世界社会フォーラムの運動展開とも相乗していると推測される。

（2）ICAEリージョン組織の調査の開始とそこから得られた知見

まず、アジア・パシフィックリージョンについて、その初期の発展においては第二代事務局長Chris Duck氏の勢力的な活動が要となっていたこと、その段階では、すでに創設されていたICAEとの連携した活動が展開されていたこと、そこに至る過程では第1回世界大会（タンザニア）での関係者の結びつき強化の影響が大きかったことなどの仮説をたてる根拠を得ることができた。また、1990年頃、ASPBAEの組織運営におけるジェンダーバランス問題を捉えた変革の働きかけがあったこと、さらにメンバー組織の構成がNGO、市民社会組織を中心としたものに、この時期から移行していったのではないかという知見を得ることもできた。

ところでASPBAEメンバー組織の中から1990年代に、アジア成人教育フォーラム（EAEAE）が独自に組織された。これはEAEAE関係者によると、先進国における成人教育の政策と運動について、より焦点をしばって検討するネットワークの必要が自覚されて形成されたと説明されてきた。しかし、EAEAEの中心メンバーで、1990年前後にASPBAEの担い手として、東アジアでの参加国の拡大・浸透に努力した人物の、ASPBAEリフレクションセミナーへの参加と証言により、当時の中華人民共和国や大韓民国の政治情勢の変化と、また、東南アジア・南アジアと東アジアとでの各国関係者の関心・連携方法の違い、ASPBAEを支援する先進国NGOとのかかわり方の違い、さらに、政治権力との関係の取り方の違いなども、EAEAEの創設とその後、今日までのASPBAEとのその関

係の希薄化に関係しているのではないかと仮説を立て得る情報を得ることができた。なおしかし、オーストラリア、ニュージーランドの ASPBAE との今日までつづく継続的な関わりを考慮にいと、改めて、先進国、途上国の枠組みだけでなく、ASPBAE と当該国との関わりを歴史的蓄積や、国内の成人教育運動の構造とリージョン組織との関係など、ASPBAE の歴史経過を分析するための枠組みを、改めて精緻に構築する必要があることが分かった。

ヨーロッパ成人教育協会 (EAEA) については、すでに 1953 年に創設されているが、2000 年頃に名称変更・規約改正が行われ、以後、独立した事務所が設置されたこと、現事務局長はそれ以後、三代目であることが分かった。さらに EAEA はブリュッセルに事務所を置いて、現在もその体制強化がはかられているが、2000 年以前は、個人のボランティアな活動が事務局の活動を担っていたとの情報も得た (インタビューより)。しかし、これについては英国の成人及び継続教育ナショナル組織及びドイツ成人教育協会との歴史的かかわりなども踏まえて、正確な情報を得る必要があり、現事務局長 Gina Ebner 氏から、これまでの歴史についてインタビューすべき人物の情報を得ることができた。なお、現在の EAEA の活動は EU の諸政策を重要な対象として、これに働きかけるとともに、各国の成人教育政策推進のために、メンバー組織の関係者を支援するセミナーを積極的に展開していることも、参与観察によってより具体的に知ることができた。

報告者はこれまで、ユネスコ国際成人教育会議についても、その意義について参与観察によって検討してきた。ICAE とそのリージョン組織の企画運営への関わりは第 5 回 (1997 年) ハンブルク会議からはじまっていたが、第 6 回 (2009 年) ベレン会議ではその関わりが強まり、この会議の、各国政府の政策へ影響を強めるための仕掛けづくりが発展してきたことについて、その仕掛け自体の意味と、その発展過程を事実と理論構造をふまえてすでに分析している。ところで、それ以外にも、この間、ユネスコ生涯学習研究所がベレン会議の後のフォローアップ活動で導入してきたバーチャルセミナーの手法は ICAE が開拓してきた方法に類似しており、ICAE の活動の影響をそこに見て取ることができる。しかし、第 6 回ベレン会議のフォローアップ過程では、2 回目のナショナル・レポートの位置づけ等において、NGO の関わりが若干、後退しているように思われる。この点はなお、正確な分析によって、ICAE の同会議への影響力の変化とその意味を検討する課題があることが分かってきた。

## 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 5 件)

荒井容子「特別報告『ユネスコ第 6 回国際成人教育会議 (CONFINTEA VI) の成果と今後の課題』報告 市民社会組織 (CSO)『第 6 回国際成人教育会議のための国内「草の根会議」の立場から』『日本社会教育学会紀要』No.47 2011 年 pp.92-93。

荒井容子「社会教育法と国際的動向」社会教育推進全国協議会『社会教育法 60 年 - 権利としての社会教育を活かす』社全協ブックレット」No.4 2010 年 pp.66-75。

荒井容子「第 6 回国際成人教育会議 (CONFINTEA VI) のための国内『草の根会議』と市民社会組織 (CSOs: Civil Society Organization) レポート」『日本社会教育学会紀要』No.46 2010 年 pp.143-146

荒井容子「第 6 回国際成人教育会議と社会教育職員制度構築 (改革)」全国社会教育職員養成連絡協議会 紀要『社会教育職員研究』第 17 号 2010 年 pp.21-23

荒井容子「成人教育運動の国際的連帯 (4) - 第 6 回国際成人教育会の本会議 (ベレン会議) の概要と日本国内の動き - 」『月刊社会教育』No.655 2010 年 5 月号, pp63-69。

〔学会発表〕(計 3 件)

荒井容子「国際成人教育協議会 世界大会の展開 - 成人教育運動の国際的展開における意味」(日本社会教育学会第 60 回研究大会 於東京学芸大学 自由研究発表 2013 年 9 月 28 日)

荒井容子「国際会議と市民社会組織の運動 社会変革につなげる手法の発展」(日本社会教育学会第 59 回研究大会 於北海道教育大学 釧路校 ラウンドテーブル「グローバルに連帯する社会教育」2012 年 10 月 8 日)

荒井容子「ユネスコ第 6 回国際成人教育会議 (CONFINTEA VI) の成果と今後の課題 市民社会組織 (CSO) 第 6 回国際成人教育会議 (CONFINTEA VI) のための国内『草の根会議』の立場から」(日本社会教育学会 6 月集会 法政大学、特別報告会: 「ユネスコ第 6 回国際成人教育会議 (CONFINTEA VI) の成果と今後の課題」2010 年 6 月 5 日)

〔図書〕(計 8 件)

荒井容子「成人教育の発展に関する勧告」社会教育・生涯学習辞典編集委員会編『社会教育・生涯学習辞典』朝倉書店 2012 年 674 ページ (pp.350-351)

荒井容子「カナダの成人教育・生涯学習」社会教育・生涯学習辞典編集委員会編『社

社会教育・生涯学習辞典』朝倉書店 2012 年  
674 ページ ( pp.78-79 )

荒井容子「国際成人教育協議会」社会教育・生涯学習辞典編集委員会編『社会教育・生涯学習辞典』朝倉書店 2012 年 674 ページ ( p.162 )

荒井容子「ユネスコ『大衆の文化的生活への参加及び寄与を促進する勧告』」社会教育・生涯学習辞典編集委員会編『社会教育・生涯学習辞典』朝倉書店 2012 年 674 ページ ( p.596 )

荒井容子「ハンブルク宣言」社会教育・生涯学習辞典編集委員会編『社会教育・生涯学習辞典』朝倉書店 2012 年 674 ページ ( p.504 )

荒井容子「ユネスコ国際成人教育会議」社会教育・生涯学習辞典編集委員会編『社会教育・生涯学習辞典』朝倉書店 2012 年 674 ページ ( pp.595-596 )

荒井容子「『成人教育運動の国際的展開』を追い続けて気づかされたこと」教育実践検討会編『問い続けるわれら 生涯学習人として生きる』第 2 集「教育実践検討会」発行 2012 年 524 ページ ( pp.320-346 )

荒井容子「第 3 編-2 社会教育・生涯学習の国際的動向 (国際機関・欧米)」『社会教育・生涯学習ハンドブック』第 8 版 エイデル研究所 2011 年 847 ページ ( pp.202-217 )

〔その他〕

ホームページ等

<http://prof.mt.tama.hosei.ac.jp/~yarai/index.html>

<http://prof.mt.tama.hosei.ac.jp/~yarai/JDGMCON6/JDGMCON6jp.html>

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

荒井 容子 ( ARAI ,Yoko )

法政大学・社会学部・教授

研究者番号：70287837

### (2) 研究分担者

( )

研究者番号：

### (3) 連携研究者

( )

研究者番号：